



陳言コラム-26

中国雑談

「就職超氷河期」の到来

日本は6月1日から就活面接の解禁日で、中国は6月7日から大学の全国統一試験の日だ。大学生、また大学に進学したい高校生にとって6月は鬼門かもしれない。

中国の人的資源・社会保障部によると、2016年の夏、765万人の大学新卒生が職場に入るといふ。中国の大卒生の数は逐年増加しており、2005年には300万人を突破した。2008年には500万人、2011年には600万人を超え、ここ3年ではさらに年間16万～28万人増加している。中国の大学新卒生の数は、かつての145万人(2002年)から前代未聞の765万人へと急増している。

さらに、国家人的資源・社会保障部のデータによると、中等職業学校新卒生及び中学校・高校卒業後に進学しない生徒の数を加えると、今年の就職を希望する全新卒生の数は計1500万人という驚くべき数字となる。

インターフェイス・ニュースの報道では、「毎年のように最も就職が難しい時期と言われてきましたが、先輩たちに比べても、今年の情勢はさらに急転直下といってもいいように思われます」という新卒生の話が引用されていた。

国務院発展研究センターのある研究によると、2013年には、GDPの成長率1%ごとに140万～160万人の雇用を受け入れられるという。この計算でゆくと、今年もし1500万人増加の若者の雇用を解決しようとするならば、7.2%以上の経済成長率が必要だが、これは達成不可能な数字である。

中国の就活を分析する場合、筆者はよく「智联招聘」のデータを使う。今年第1四半期には一つのポストの募集に平均48通の履歴書が届くなど、以前の26通に比べても二倍近く、これも今年の雇用競争がいかに熾烈であるかを物語るものである。

泣きっ面に蜂とも言えるのが、「過剰生産能力解消」というマクロ経済政策が、就職市場の難題をさらに増幅させていることである。「中国就職研究所」と「智联招聘」が共同



で発表した 2016 年第 1 四半期の「中国就職市場景気レポート」によれば、今年 2、3 月の調査では失業率が上昇傾向をみせており、具体的に農業戸籍人口の失業率の上昇が見られ、さらに短期失業者が比較的多く、過剰生産能力解消の対象となる業界の採用が減ったことがひとつの重要な要素となっていることが伺える。

日本の学生と違って、中国の大卒者は、多くの人が起業している。しかし、筆者はあまり大学生起業を多くは望めない。というのは、起業に身を投じる大学生がどれだけいようと、大学生の起業の成功率の低さも争えぬ事実である。それについて、『インターフェイス・ニュース』はある調査データを引用している。現在、全国の大学生の起業成功率は最高で浙江省の 4%、中国大学生の起業成功率の平均は 2%であり、これは欧米の大学生の起業成功率 20%と比べるとわずか 10 分の一という大きな差がある。

就職超氷河期は、中国ではしばらく続くだろう。